

科目名	発達支援看護学演習 Seminar on assessing growth and development in Pediatric and Family Nursing
授業形態	講義(30%)、演習(70%)
標準履修年次	
実施学期・曜時限等	秋学期 A・B 木曜日1・2(原則)だが受講生との協議により不定期に定める
実施場所	共同利用棟B103
単位数	2単位
担当教員名	涌水 理恵 Wakimizu Rie 小澤 典子 Ozawa Noriko
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	オフィスアワーは特に定めませんが事前にメール連絡をしてアポイントメントをとること 涌水 理恵 riwaki@md.tsukuba.ac.jp 小澤 典子 nozawa@md.tsukuba.ac.jp
授業の到達目標 (学習成果)	(1)発達支援ケアの研究動向について調べることができる。 (2)発達支援ケアの国内外の研究の動向について解説することができる。 (3)子ども、家族を対象とした調査研究の手法や纏め方について説明できる。 (4)子ども、家族を援助するための新しい発達支援ケア(内容・方法)を企画できる。 (5)新しいケア(内容・方法)を地域あるいは臨床の場で安全かつ有効に実施するため方策を理解できる。
他の授業科目との関連	発達看護学特論、家族看護学特論
履修条件	なし
授業概要	地域の保育所などで集団生活を送る、あるいは長期入院を余儀なくされている、ターミナル期を迎える、といったあらゆる健康レベルの子どもと家族に、看護師として科学的根拠に基づいた発達支援ケアを実践するための知識・技術を習得する。障害や慢性疾患を有しながらも地域で生活する児と家族、長期入院を余儀なくされている児と家族、ターミナルを迎えた児と家族、また妊娠先行型結婚をした家族など様々なハイリスク状態にある児と家族の事例を通して、各事例に望ましいケアや看護実践について臨床上のゴールさらには政策的課題をも含め、研究的に討議し、習得する。
キーワード	成長発達、小児とその家族への看護、発達支援ケア
授業計画	1(10/3)さまざまな状況にある子どもと家族への発達支援と看護ケア:総論(涌水・小澤) 2(10/3)地域で健康に暮らす子どもと家族への発達支援1(涌水・小澤) 3(10/10)地域で健康に暮らす子どもと家族への発達支援2(涌水・小澤) 4(10/10)地域で健康に暮らす子どもと家族への発達支援3(涌水・小澤) 5(10/17)健康障害を有し入院生活を送る子どもと家族への発達支援1(涌水・小澤) 6(10/17)健康障害を有し入院生活を送る子どもと家族への発達支援2(涌水・小澤) 7(10/24)健康障害を有し入院生活を送る子どもと家族への発達支援3(涌水・小澤) 8(10/24)ハイリスク状態にある子どもと家族への発達支援1(涌水・小澤) 9(10/31)ハイリスク状態にある子どもと家族への発達支援2(涌水・小澤) 10(10/31)ハイリスク状態にあるカップルへの発達支援1(涌水・小澤) 11(11/7)ハイリスク状態にあるカップルへの発達支援2(涌水・小澤) 12(11/7)子どもと家族の発達を支援するための新しい看護ケアの検討1(涌水・小澤) 13(11/14)子どもと家族の発達を支援するための新しい看護ケアの検討2(涌水・小澤) 14(11/14)子どもと家族の発達を支援するための新しい看護ケアの検討3(涌水・小澤) 15(11/21)子どもと家族の発達を支援するための新しい看護ケアの検討4(涌水・小澤) 16(11/21)新しい看護実践法に向けた研究計画立案1(涌水・小澤) 17(11/28)新しい看護実践法に向けた研究計画立案2(涌水・小澤) 18(11/28)新しい看護実践法に向けた研究計画立案3(涌水・小澤) 19(12/5)新しい看護実践法に向けた研究計画立案4(涌水・小澤) 20(12/5)新しい看護実践法に向けた研究計画発表(まとめ)(涌水・小澤)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義(9時間)、演習(21時間) 事前に課題を行い、プレゼンテーションの準備およびクリティークの準備を万全にして授業に臨む。 毎回プレゼンテーションをしたのち、ディスカッションを実施する。 授業外でも、学生同士で授業内容の活用方法の討論を活発におこない、日頃から関連文献を検索・精読し、授業内容について、積極的に思考する態度をもつ。

成績評価方法	<p>15コマ以上の出席と最終評価が60点以上が単位主要要件である。</p> <p>成績評価方法および評価配分は以下の通り。毎回、プレゼンテーション(50%)、ディスカッション(50%)で、到達目標の達成度を以下の基準に基づいて判定し、全20回分の平均をとって成績を評価する。</p> <p>評価基準は以下の通り。</p> <p>到達目標の1～3を指導に従って大旨達成できればC以上と判断する。</p> <p>到達目標の1～3を達成できていると判断されればB以上と判定する。</p> <p>到達目標の1～5について達成できていると判断されればAと判定する。</p> <p>到達目標の1～5について優れて達成できていると判断されればA+と判定する。</p>
教材・参考文献・配布資料等	随時紹介・随時配布する。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。30分を過ぎた遅刻は欠席とみなす。